



## ANALISIS MAKNA SIMBOL UNSUR ALAM DALAM KANYOOKU BAHASA JEPANG

(日本語慣用句における自然要素のシンボルの意味の分析)

Tri Cuciati 

Jurusan Bahasa dan Sastra Asing, Fakultas Bahasa dan Seni, Universitas Negeri Semarang,  
Indonesia

### Info Artikel

*Sejarah Artikel:*

Diterima April 2013  
Disetujui April 2013  
Dipublikasikan April  
2013

*Keywords:*

Makna Simbol, Unsur  
Alam, Kanyooku

### Abstrak

Kanyooku digunakan oleh masyarakat Jepang untuk berkomunikasi yang fungsinya memperhalus kalimat sebagai alternatif strategi berbahasa dengan tujuan agar lawan bicara tidak tersinggung. Kanyooku unsur alam banyak digunakan sebagai nama keluarga oleh orang Jepang. Percaya dengan banyak dewa dan kekuatan alam berpengaruh pada sikap masyarakat Jepang yang menaruh hormat sangat tinggi terhadap alam, sehingga penulis tertarik untuk mengetahui makna simbol unsur alam yang menggunakan kata mizu, kane, tsuchi, yama, dan abura, karena kelima unsur alam tersebut yang paling dekat hubungannya dan kaitannya dengan kepercayaan dan kebudayaan orang Jepang. Berdasarkan latar belakang di atas, dalam penelitian ini dibahas tentang simbol dan makna simbol kanyooku yang menggunakan kata mizu, kane, tsuchi, yama, abura, serta makna positif dan makna negatif yang terkandung dalam kanyooku tersebut. Tujuan penelitian ini adalah mengetahui simbol dan makna simbol kanyooku yang menggunakan kata mizu, kane, tsuchi, yama, abura, serta makna positif dan makna negatif yang terkandung dalam kanyooku tersebut. Penelitian ini menggunakan pendekatan deskriptif kualitatif, yaitu mendeskripsikan tentang kanyooku unsur alam bahasa Jepang yang menggunakan kata mizu, kane, tsuchi, yama, abura. Teknik pengumpulan data yang digunakan berupa studi kepustakaan atau studi literatur, kemudian dilanjutkan dengan teknik analisis data yang menggunakan teknik analisis deskriptif.

© 2013 Universitas Negeri Semarang

 Alamat korespondensi:  
Gedung B4 Lantai 1 FBS Unnes  
Kampus Sekaran, Gunungpati, Semarang, 50229  
E-mail: pbjunnes@gmail.com

ISSN 2252-6250

## 背景

言語の主な機能はコミュニケーションのためです。コミュニケーションがよくできるようにイディオムやことわざ、慣用句などの知識を持っているのは必要である。

日本語では、慣用句の種類が色々あり、動物や自然や植物、人体の部分などを使用する。しかし、その中で日本人が慣用句によく使っている言葉は自然の言葉である。また、日本人は「金田」という名前のような苗字を自然の言葉をよく使用する。それは、金という自然的な言葉は「金の神様」ということと関係があると信じられている。上記に基づいて、日本語慣用句における自然要素のシンボルの意味の分析について研究した。

## 理論

### a. シンボルの意味

Duranti (2005)はDharmojo (2005: 42)を引用して、文化はシンボルのシステムとして六つの重要な役割があると述べている。それは次の通りである。

1. 自然と違う物としての役割。
2. 知識としての役割。
3. コミュニケーションとしての役割。
4. メディエーションシステムとしての役割。
5. 実行システムとしての役割。
6. 参加システムとしての役割。

### b. ポジティブな意味とネガティブな意味

ハエル (1990: 70-71)は慣用句の意味から表しているポジティブな意味とネガティブな意味はついている単語によって変えられる。それは、日本の文化に影響されている。慣用句は正しい場面で使用されれば意味がはっきり分かる。

### c. イディオム

Soedjoto (1987)はKBBI (1988: 320)を引用して、イディオムは「二つ以上の単語の組みあわせであり、それぞれの単語の意味を理解できない決めた意味を表す」と述べている。イディオムには辞書的な意味と慣用句的な意味がある。

### d. 慣用句の意味

倉持(1998)は慣用句は「二つ以上の単語決まった結びをして、それぞれの単語の意味をただつなぎ合わせても理解できない別の意味を表す言い方を慣用句と読んでいる」と述べている。

### e. 慣用句の分類

井上(1992: iv-xi)によれば、慣用句の分類は次の通りである。

1. 感覚、感情を表す慣用句
2. 体、性格、態度を表す慣用句
3. 行為、動作、行動を表す慣用句
4. 状態、程度、価値を表す慣用句
5. 社会、文化、生活を表す慣用句

### f. 慣用句の機能

井上(1992)は慣用句というのは、私たちの日常の会話や文書の中で数多く使われている。それはたいてい短い言葉だが、時と所に合わせて適切に使うことによって、文書や会話の表現が生き生きと豊かなものになるといっている。

## 研究の方法

本研究では、質的なデスクリプティブを使用した。研究のデータは倉持保男と坂田雪子が書いた「三省堂慣用句便覧」という本である。データの対象は「水」、「金」、「土」、「山」、「油」を使っている慣用句。データの収集方法は図書であり、データの分析の手法は記述的である。研究は次の段階の通りに行われた。

1. 「水」、「金」、「土」、「山」、「油」を使う慣用句を調べた。

2. 品詞によって慣用句をいくつかのグループに分けた。
3. 「水」、「金」、「土」、「山」、「油」を使う慣用句の意味を分析した。
4. 辞書的な意味と慣用句的な意味の関係を探した。
5. 「水」、「金」、「土」、「山」、「油」という慣用句からポジティブな意味とネガティブな意味の場面を決めた。
6. 分析の結果を結論する。

### 研究の結果

分析の結果によって、「三省堂慣用句便覧」で「水」、「金」、「土」、「山」、「油」使っている慣用句が41慣用句である。水を使っている慣用句は(1)水が合わない、(2)水際立つ、(3)水と油、(4)水に流す、(5)水に馴れる、(6)水の泡になる、(7)水もしたたる、(8)水も漏らさぬ、(9)水をあける、(10)水が打ったよう、(11)水を得た魚のよう、(12)水を掛ける、(13)水を差す、(14)水に向ける、である。金を使っている慣用句は(1)金がうなる、(2)金で縛る、(3)金で面を張る、(4)金に飽かす、(5)金に糸目をつけない、(6)金の切れ目が縁の切れ目、(7)金のなる木、(8)金は天下の回り物、(9)金離れがいい、(10)金回りがいい、(11)金持喧嘩せず、(12)金を食う、(13)金を寝かす、(14)金を回す、である。土を使っている慣用句は(1)土がつく、(2)土となる、である。山を使っている慣用句は(1)山が当たる、(2)山が見える、(3)山場を迎える、(4)山山だ、(5)山を当てる、(6)山をかける、である。油を使っている慣用句は(1)油が切れる、(2)油紙に火が付いたよう、(3)油を売る、(4)油と絞る、(5)油を注ぐ、である。それぞれの慣用句は「環境」、「才能」、「物事の」、「事」、「性格」、「性質」、「優勝者」、「状態」、「金」、「自由」、「服従する」、「富」、「負ける」、「願

い」、「目的」、「望み」、「推測する」、「体」、「話」という意味を表す。

### 結論

倉持保男と坂田雪子の「三省堂慣用句便覧」では環境、才能、物事の、事、性格、性質、優勝者、状態、金、自由、服従する、富、負ける、願い、目的、望み、推測する、体、話の意味を持っている水・金・土・山・油の慣用句をよく使う。辞書的な意味と慣用句的な意味の関係がよく使っている慣用句は原因・結果である。慣用句についている品詞によると研究の結果は動詞慣用句に使われている慣用句が多かった。慣用句には水、金、土、山、と油のシンボルの場面はポジティブな意味を持っている。

### DAFTAR PUSTAKA

- Akirakanshuu, Matsumura. (1995). *Daijisen*. Jepang: Shougakukan.
- Candra, Rike. (2009). *Analisis Tiga Haiku yang Berhubungan dengan Tiga Makna Simbol Sakura Ditinjau dari Segitiga Makna Ogden dan Richards*. Online <http://www.google.co.id/search?hl=id&noj=1&q=skripsi+analisis+tiga+haiku+yang+berhubungan+dengan+tiga+makna+simbol+sakura+ditinjau+dari+segitiga+makna+ogden+dan+richards++&btnG=Telusuri>
- Chaer, Abdul. (1990). *Pengantar Semantik Bahasa Indonesia*. Jakarta: Rineka Cipta
- Dharmojo. (2005). *Sistem Simbol Munaba Waropen Papua*. Jakarta: Pusat Bahasa
- Garrison, Jeffrey G. (1996). *Seri Renik Bahasa (Idiom Bahasa Jepang)*. Jakarta: Kesaint Blanc
- Inoue, Muneo. (1992). *Rekai Kanyooku Jiten*. Jepang: Sotakushashuppan.
- Keraf, Gorys. (1985). *Diksi dan Gaya Bahasa*. Jakarta: Gramedia
- Kesuma, Tri Mastoyo Jati. (2007). *Pengantar (Metode) Penelitian Bahasa*. Yogyakarta: Carasvatibooks

- Kridalaksana, Harimurti. (1982). *Kamus Linguistik*. Jakarta: Gramedia
- Kuramochi, Yasuo dan Yukiko Sakata. (1998). *Sanseidou Kanyooku Benran*. Japan: Sanseidou
- Morita, Yoshiyuki. (1990). *Nihongo to Nihongo kyouiku*. Japan: Bonjinsha
- Rahmah, Yuliani. (2010). *Analisis Kanyoku yang Mengungkapkan Perasaan*. (Analisis Deskriptif Ungkapan Rasa Marah dan Ungkapan Rasa Terkejut pada Buku Reikai Kanyooku Jiten). Online [staff.undip.ac.id/sastra/yuliani-rahmah/files/2010/07/kanyoku-yuli.doc](http://staff.undip.ac.id/sastra/yuliani-rahmah/files/2010/07/kanyoku-yuli.doc)
- Sakata, Yukiko. (1995). *Nihongo o Manabu Hito no Jiten*. Japan: Nihon'go no Kai Kigyo Kumiai and Shinchosha